

# 哲学喫茶

特集１：哲学カフェのひらき方

特集２：哲学が味わえるカフェ



Si Socrate avait bu du café, toutes les énigmes sur la terre aurait été résolu.

vol.1  
2006.3

カフェフィロ（CAFÉPHILO）とは

大阪大学臨床哲学研究室のメンバーが中心になって、2005 年 4 月に発足した団体です。カフェと名前がついていますが、どこかに実在する喫茶店ではありません。カフェという言葉には、いろいろな人々が集まり、リラックスして語り合う社会の中の場所という意味がこめられています。わたしたちは社会の中、カフェのような身近な場所で、他人と対話し、ともに考えを深めることのお手伝いをします。

哲学すること、それは一部の専門家、偉い学者先生のものではなく、社会のなかで生きるすべての人のものです。難しい言葉や高度な知識は必要ありません。忙しい日常のなかで少し立ち止まり、他人や自分の言葉にあらためて耳を傾ける余裕さえあれば、誰でもが哲学的対話に参加できます。

カフェフィロでは、さまざまなテーマで「哲学カフェ」と呼ばれる哲学対話ワークショップを中心的活動として行っており、そこには老若男女さまざまな方が参加して下さっています。それ以外にも哲学対話セミナーや、絵や映画、ダンスを言葉で鑑賞し、考えを深めていく「アート哲学カフェ」、子ども向けのワークショップ「こどもの哲学アトリエ」中学、高校への出前哲学授業なども行っています。

また上記活動以外にも、社会の中で行われているさまざまな対話推進・支援活動や教育機関を含め社会のなかで哲学を教え、伝える人たちともネットワークを作る、哲学や対話についての研究会、シンポジウムを開催するなどして、社会のなかで実践することに取り組んでいます。カフェフィロは「社会のなかで生きる哲学」のあり方を探り、それを実現するとともに、哲学とともに生きる人たちをサポートする組織です。

MENU

WORKSHOP PHILO

哲学カフェ、シネマ哲学カフェ、アート哲学カフェ、哲学対話セミナー、こどもの哲学アトリエカフェ、中・高への哲学出前授業

NET PHILO

対話の進行役の交流・情報交換、哲学ファシリテーターの養成、哲学・倫理学を教え、伝える人たちのネットワーク作り、哲学・倫理学教育のための教材研究

RESEARCH PHILO

「こどもの哲学」研究会、大阪大学臨床哲学研究室や大阪大学コミュニケーションデザイン・センターとの共催ワークショップ、研究会

MEDIA PHILO

フリーペーパーの発行、ホームページでの情報発信、哲学的対話についての研究成果、情報、教材などの発行

お問い合わせ CAFÉ PHILO OFFICE

☎ 560-8232 大阪府豊中市待兼山町 1－5

大阪大学文学研究科 本間講師室内

e-mail: office@cafephilo.jp

http://cafephilo.jp

常時会員募集中！

哲学喫茶 vol.1 2006 年 3 月 1 日発行

発行人：本間直樹 編集・デザイン：高橋 綾

## 特集1 哲学カフェのひらき方

哲学カフェはわたしたちカフェフィロの中心的な活動です。ここでは哲学カフェとはどのような活動であるかを簡単に紹介します。

**カフェで** カフェ、それは、家族や友人と過ごすプライベートな場所と仕事をするパブリックな場所との中間にある、第三の場所です。そこではなれあいの親密さでも、役割や肩書きを通じて関わるのではない、他人との別の関わりが生まれる場所です。こうした場所はどの国、どの地域にも昔からあり、カフェ、パブ、銭湯といった街の「社交場」として親しまれてきました。

「社交場」としてのカフェに欠かせないもの、それはコーヒー（飲み物、食べ物）と言葉です。堅苦しい会議や討論会ではなく、他人と一緒にちょっと一杯飲みながら、何かをつまみながらリラックスして過ごすこと。そして言葉を交わし、やりとりすること。カフェのざわめきの中で生まれる対話に加わってみませんか。

**哲学を** 哲学することに一番大事なのは「問いかけ」です。答えを出すこと、探すことよりも大切なことは、出された意見によく耳を傾け、そう考えるにいたった理由や筋道はどのようなものかと問うこと、そのような理由や筋道を支えている価値観や信念に目を向けることです。哲学カフェとは、各自が自説を一方的に展開する場所でも、相手の意見をそのまま受け入れる場所でもありません。そこは他人とともに、お互いの意見の理由や筋道、価値観や信念にあらためて向かい合い、それを言葉によって描きなおしていく場所です。

本で読んだ知識や、テレビや新聞で見聞きしたこと、「親なら」「学生なら」「女なら」こう考えるのが「当然」とされていること、それは本当にあなたの言葉になっていますか？哲学カフェでは、社会のなかにあるさまざまな意見、「当たり前」を解きほぐし、ほかでもないこの〈わたし〉として言葉を発し、自分や他人の言葉に向かい合い、他人や社会との関係を結び直していくことをともに試みます。

**味わう** 哲学カフェはセミナーや研究会ではないので、決まった定義・形はとくにありません。必要と思われるのは、まず、人々が集まれる場所、みんなで話し合うテーマや問い、そして議論を助ける進行役の３つです。結論が最後まででないこともしばしばです。開かれる場、主催者、進行役、集まる人々によって雰囲気がちがってきます。徹底討論するもの、じっくり対話を進めるもの。その場でテーマをつのるもの、進行役がテーマを提示するもの。哲学の知識・歴史をフル活用するもの、日常経験を活かすもの、などなど。カフェフィロが開く哲学カフェもさまざまです。とはいえ、進行役がぐいぐいとリードしたり、ケンケンガクガクの議論というより、〈話すー聞く〉を丁寧に積み重ねてじっくり考えることが多いです。それでも進行役の個性や場所の雰囲気によって違ってきます。いろいろなカフェに参加して進行役の個性や違いを味わうのも、哲学カフェの楽しみ方の１つと言えるでしょう。

**Q&A** よくある質問にお答えします。

**Ｑ１．今まで哲学を勉強したことがありません。参加できますか？**

Ａ１．参加できます。カフェフィロの哲学カフェでは、進行役が参加者に哲学の知識を求めたりきいたりすることはありません。話して聞いて考えることに興味がある方ならだれでも歓迎します。また哲学の知識を禁止もしていません。ただ哲学に限らず専門知識にもとづいて話す時は、予備知識がなくても理解できる程度に参加者自身に説明を加えてもらいます。

**Ｑ２．ソクラテスカフェ、哲学カフェ等いろいろ呼び名があるようですが何か違いはありますか？**

Ａ２．基本的に大きな違いはありません。カフェフィロが行う場合は「哲学カフェ」でいたい統一しています。逆に名称が同じでも主催団体が違えば進め方や雰囲気が違ってきます。進行役によっても雰囲気がかなり違ってきますから、気になる方は事前に主催者や担当者等に問い合わせてみるのもいいでしょう。

**Ｑ３．各地でいろんな人が哲学カフェを開いているようですが、すべてカフェフィロがかかわっていますか？**

Ａ３．そうではありません。カフェフィロは哲学カフェを開いている団体の中の１つです。共催・協力などの場合を除き、他の個人・団体による哲学カフェには関与しておりません。もし参加しようと思っている哲学カフェがカフェフィロと関係があるかどうかを確認したい場合には、カフェフィロ事務局（office@cafephilo.jp）までお問い合わせ下さい。

**約束** カフェフィロの哲学カフェには決まり事があります。

・できるだけわかりやすく意見を述べてください。

・発言は最後まで聞きましょう。

・信条を一方的に述べて押しつけることは控えてください。

・発言するしないは参加者の自由です。

・途中参加・退出自由です。ただし人数・テーマ内容により制限する場合があります。（その他必要に応じてルールを追加することがあります。）

**哲学カフェの歴史を知りたい人に・・・**

哲学カフェの発祥地はフランスです。1990 年代にマルクソーテという人が「カフェ・デ・ファール」ではじめました。その後活動に共感する人々がパリを中心に活動を広げていきました。現在はフランス国外へと広がっています。呼称はソクラテスカフェ、カフェフィロなど様々です。日本でも哲学カフェを開いている人たちがいます。たとえば大阪では「実験哲学カフェ」（中田敏史さん主催）が2001 年から開催され100 回を超えているとききます。私たちカフェフィロも発足後あるいはそれ以前から関西・関東を中心に開いてきました。他にも各地でいくつか開催されているようです。さらにもっと詳しく知りたい人は以下の本やＨＰが参考になります。

【本】  
・『ソクラテスのカフェ』（マルクソーテ著、堀内ゆかり訳、紀伊國屋書店）  
・『ソクラテスのカフェ２』（同）  
・『ソクラテス・カフェによこそ』（クリストファー・フィリップス 著、森丘道訳、光文社）

【ホームページ】  
・ Philo（フランス語または英語）  
http://www.philos.org/  
・ 実験哲学カフェ  
http://tetsugakucafe.jp/



## テーマについて

これまで取り上げたことのあるテーマの具体例を緩やかなジャンルにわけてあげてみました。進行役や主催者から提示されることもありますが、参加者から募ることもよくあります。テーマの適・不適の具体的規準があるわけではありませんが、まずは自分が考えたいこと、興味をもてることが大事でしょう。同時に哲学カフェでは必ず誰か他人がいますから、その場にいる多くの人が興味・関心をもつてのぞめることも大切です。とはいえ「こんなテーマでもいいんだろうか・・・」とためらわずに思いついたらぼんぼん出してみて下さい。哲学カフェはあくまで思考の共同作業。どんなテーマがいいんだろうと問いはじめた時から、それは既にはじまっているのです。

## Life

生きる意味とは？

生きる力を与えるものは何か？

私の命は私のものか？

私の望む死に方

QOL

私の死

私の考える死

幸福と不幸

ストレスについて

夢をもつことは必要か？

我慢するのはよいことか？

セーフアーセックスって気持ちいいの？

スピリチュアルとは？

自分の時間／家族の時間

夫婦とは？

夫はどうあるべきか？

友達を使い分けることはできるか？

私はなぜ〈健康に悪い〉と思っていることをやめられないのか？

「わかっているのにやめられない」とはどういうことか？

## Care

優しさとは？

親切とおせっかい

癒し

どこまで人に迷惑をかけてよいか？

なぜ人を傷つけるのか？

「傷つけるケア」は成立するか？

## Identity

私らしさとは？

その人らしさとは何か？

個性的であるとはどういうことか？

ふつうとは何か？

ふつうと人なみ

## Philosophy

なにかを信じるとはどういうことか？

知るとはどういうことか？

ほんもの／にせもの

事実と真実

普遍的な「かつこよさ」はあるか？

「世界」とはなにか？



特集2 哲学の味をえるカフェ

私たちカフェフィロは、神戸や大阪などのいくつかのカフェに出前して哲学カフェをひらいています。どのカフェも個性的で、コーヒーや食べ物にもこだわりのあるところばかりです。ぜひ一度足をお運びください。関西以外でカフェフィロメンバーが行っている哲学カフェからの報告も寄せられています。

01 コーヒーショップ JUN



大倉山駅 3 番出口から徒歩 1 分。近くは大倉山公園・湊川神社・神戸大学・市立体育館などがあって、その行き・帰りにふらっと立ち寄るのに便利です。お店は通りに面していますが、落ち着いたたたずまいはちょっとした隠れ家的雰囲気もあります。哲学カフェは 2F の通りに面した窓際席がほぼ指定席。ジャズの街神戸らしく店内にはいつもジャズがながれ、窓辺には船舶用の真鍮ランプが並んです。メニューはコーヒーは勿論のことランチ、ディナーなど食事もできます。メンバー情報ではカレーが相当おいしいそうです。

- コーヒーショップ JUN とカフェフィロとの出会いは  
関係者がしばしば通っていたご縁でマスターにお願いしました。はじめてこの場所で開催したのが 2005 年 3 月です。その後だいたい月 1 回のペースで開催してきました。



- コーヒーショップ JUN での私たちの活動は  
日曜日の 13:00 ～ 16:00 に開催。参加者は毎回 10 人前後、参加費は 1000 円。貸し切りではありませんので一般のお客さんもいらっしゃいます。時々不思議そうにこちらの様子を眺めてる（聞き耳をたててる）方も?! これまで取り上げたテーマは「ボランティアに動機は必要か?」「誰でも対話できるか?」「幸福とは?」「生きる意味とは?」「分かるとは?」「大人とは?」等です。最近では参加者からテーマを募るようにしています。場所を固定した甲斐あってリピーターが増えつつあり、年齢層はやや高めですが、その分考え方の違いがくっきりとでて、話しが一気に盛り上がることも。また哲学カフェ終了後もすし長居してカフェフィロメンバーや参加者同士で雑談してお帰りになる方もいます。

- 今後もますます  
2005 年は 1 年間なんとか継続することができました。2006 年も（隔月になりますが）引き続き開催していく予定です。あそこにいけば哲学カフェを楽しめる、というぐらい定着できたというのがもっぱらの目標です。またできるだけ参加者からテーマを募集したいと思っています。

- マスターはどんな方？  
いつもマスターと奥様がいらっしゃって笑顔で迎えてくれます。とてもアットホームな雰囲気です。がっしりとした体つきのマスターはかつて船乗りだったという話もあるようですが・・・。気さくな一面もありますので、忙しくないときにはカウンター席で話しかけてみると面白いお話しがきけるかも。

コーヒーショップ JUN

神戸市中央区楠町 3 丁目 2 ー 7

〈営業時間〉 月～土 9:00-22:00

日 9:00-17:00

〈定休日〉 未定

(取材・文：桑原英之)

03 cocoroom



新世界・フェスティバルゲートの四階にあるカフェ兼イベントスペース。NPO 法人こえとことばとこころの部屋によって運営されている。カフェやイベントを切り盛りするのは、この NPO 法人に関係するアーティスト達。人がせわしく行き交い、店員がきびきびと働く今風カフェのスピーディーさとはひと味違うゆったり感が印象に残る。それというのもこの cocoroom は、アーティストをはじめとして、社会の中で要領よく泳いでいくことが不得手で、そこからはじき出されてしまいそうな人達にとっての「市民相談窓口」でもあるからだ。いつでも誰かにお説教をされるわけでも、さっさと仕事を斡旋して、”はいさよなら”というわけでもない。スタッフ達も、そこにくるお客さん達も「社会のなかで生きること」「働く」ってどういうことだろうと皆が同じくらい真剣に考えている。だから他人との会話を楽しみに、そして社会へのアクセスを求めてさまざまな人が集う。アーティストには表現を社会に発信する場を提供し、展覧会やパフォーマンスイベントの企画運営のノウハウを伝え、自立する機会を作っている。最近では「就労支援カフェ cocoroom／生きる仕事シリーズ」や「ジョブジョブバババ」と銘打った仕事に関するトークイベントを開き、ニートやフリーターと言われる若者達とともに「社会で生きること」への一歩を模索中。カフェスタッフやイベントスタッフとしての雇用を生み出すとともに、マッチング、ネットワーキングにも取り組んでいるという。cocoroom は老若男女、仕事がない人、働きたくない人、仕事の合間の休憩や昼寝に立ち寄る人などいろいろな人にてぎわう、社会の半日陰のような場所。自分と他人、社会との関係についてふと立ち止まって考える、哲学するにはうってつけの場所である。

席数はだいたい 45 席。インターネットの使用も無料。詩や音楽のイベント、トークイベント、造形芸術、舞台芸術の展覧会なども積極的に開催されている。席数 45 席、飲み物いろいろ、格安のまかないごはん（600 円、何が出るかは当日の料理担当者の采配次第）は懐にも胃にもやさしい！！

- cocoroom とカフェフィロとの出会いは  
cocoroom の社会に開かれた活動方針にカフェフィロメンバーが共感、つながりが生まれ、さまざまなイベントの企画が生まれました。



- cocoroom での私たちの活動は  
ダンスを見た後でそれについて話すアート哲学カフェ（ジャワ舞踊家、佐久間真とのコラボレーション）、視覚に障害のある方と一緒に美術作品を触覚や言葉で観賞する読歩プロジェクト、書評カフェなどが行われています。cocoroom は、ステージなどのイベントスペース機能もあるため、ダンス、展覧会などのあとにカフェトークをするなど複合的な使いかたができるのが特徴です。

- 今後もますます  
「仕事」や「お金」「自立」などをテーマにした哲学カフェ、上記の読歩プロジェクト等を引き続き企画中です。

- マスターからのコメント  
cocoroom の使いかたは十人十色。イベントに参加したり、スタッフに話かけたりしてみたら、何かが始まるかも。れっつあくせす！！

**cocoroom**  
大阪市浪速区恵美須東 3 丁目 4 番 36 号  
フェスティバルゲート 4F  
tel.06-6636-1612 / fax.tel.06-6636-1662  
〈営業時間〉 12:00-22:30  
地下鉄御堂筋線・堺筋線「動物園前駅」5 番出口直結  
JR 環状線・関西線「新今宮駅」下車 徒歩すく



特定非営利活動法人・こえとことばとこころの部屋  
http://www.kanayo-net.com/cocoroom/

(取材・文：高橋 綾)

02 Café P/S



阪急王子公園駅から水道筋商店街を東へ 10 分、アーケードをぬけた左手に Café P/S はある。古くから軒を構える商店が並ぶ通りに、新しい店構えが一際目を引いている。天然木と漆喰壁の白を生かした店内は、カウンター数席とテーブルが 3 つ。季節のよい時には、通りに面したガラス戸を全面開放してオープンテラスカフェになる。

P/S とは「パブリック・スペース」の頭文字。“地域の良いものに親しむきっかけの場になれば”という想いが込めてつけられたこの名前からもうかがえるよう、この店は、商店街の活性化事業を推進する兵庫県補助を受けたチャレンジショップなのである。車椅子の方にも利用していただけるよう、入り口はたつぷりと幅をもたせたスロープになっており、誰にとっても居心地のいい空間を提供している。そんな Café P/S のいちばんの特徴は、水道筋商店街で販売する食べ物を持ち込みを奨励していること。お買物途中に商店街で買ったケーキや和菓子を持ち込んで、注文したコーヒーでほっと一息。お勤め帰りに、持ち込んだたこ焼きと店のビールで一杯、という愉しみ方も大歓迎。またコーヒーにもこだわって、エスプレッソは熱帯雨林保護連盟の認証を受けた豆を使用、ドリップコーヒーはフェアトレード（公正貿易）と有機栽培の認証を受けた豆を使用。そんなこだわりのコーヒーを、250 円から提供してくれるというから、またうれしい。そしてもうひとつの魅力は、定期的に開かれるさまざまなイベントだ。地元音楽家の演奏会や書店による古書の展示会など、地域の人たちが足を運び、交流しやすいよう、さまざまな工夫をこらしている。



- Café P/S とカフェフィロとの出会いは  
きっかけは、昨年春、カフェフィロの活動を掲載した神戸新聞の記事。記事に興味を持たれた Café P/S のスタッフが、「ぜひ、うちでも」と申し出てくださったのがはじまりです。私たちも Café P/S の活動に共感し、「ぜひ、ごいっしょに」と依頼。昨年 8 月から活動場所としてお世話になっています。

- Café P/S での私たちの活動は  
こちらでは、哲学カフェと書評カフェを行っています。初回は、昨年 8 月、「ひとの迷惑にならなければ、何をしてもよいのか」というテーマの哲学カフェ。残暑の厳しなかで、20 代から 80 代まで 20 名以上の方とさまざまな角度からテーマについて話し合いました。書評カフェは、Café P/S 近郊の病院にお勤めの看護士を中心に、死やケアをテーマとして数回開催しています。

- 今後もますます  
今後は、哲学カフェと書評カフェを交互に、それぞれ隔月で行う予定です。また Café P/S は、カフェフィロとの共催だけではなく、さまざまなイベントの企画をされています。くわしくはお店の HP([http://www.geocities.jp/cafe\\_p\\_s/](http://www.geocities.jp/cafe_p_s/)) でチェックしてください。

- お店から一言  
あらゆる世代が気楽に立ち寄れる、地域密着のカフェを目指しています。神戸一の規模を誇る水道筋商店街でのお買い物の後に、美味しいコーヒーをどうぞ。若い人たちのイベントや展示の企画も歓迎しています。

Café P/S

神戸市灘区篠原南町 6-2-2( 水道筋 1 丁目商店街内 )

tel.090-1225-8111

〈営業時間〉 正午から午後 10 時

〈定休日〉 火曜日 ( 但しイベントなどがある場合あり )

(取材・文：樫本直樹)

東京 白金カフェの二年間

私の勤め先の明治学院大学には二つのキャンパスがある。一つは東京・白金台で、もう一つは横浜・戸塚。白金台のキャンパスで「哲学カフェ宣言」をしてちょうど二年、ほぼ隔月のペースで哲学カフェを開いてきた。主に白金キャンパスの学生ラウンジ「バレットゾーン白金」を会場にしてきたが、品川の喫茶店「ルノワール」で一回、白金・プラチナ通りのイタリアン・カフェ「カフェ・ラ・ボエム」で二回、横浜キャンパスの生協食堂で一回開いたことがある。人づてに聞いた神田・神保町辺りの喫茶店がよさそうだと思っているが、まだ偵察にいけない。参加者から聞いた新宿ゴールデン街にあるカフェ・バーには一度偵察に行ったが、ふだんのカフェを開くには少し小さかった。

街のカフェを会場にしたいと思うが、まず予約が厄介だ。何人の参加者があるか当日までわからないからだ。かといって、予約なしではみんなが入れない恐れがある。その点、「カフェ・ラ・ボエム」は大きなカフェで、グループの大小に柔軟に対応してくれる有り難い存在だが、おしゃれで人気のあるカフェだけにちょっと騒々しく、参加者からは、そういう「ざわめき」も哲学カフェのうちだという声とともに、対話がしづらいという感想も聞かれた。聞くところによると、今盛んになりつつある「サイエンス・カフェ＝カフェ・シアンティフィーク」は、カフェや喫茶店を借り切って行うらしい。「バレットゾーン白金」は対話の場としては悪くない。天井の高いガラス張りの広く明るいフロアに、10 人向けの丸テーブルが並んでいる。土曜日の午後は、その丸テーブルを囲んで、あちこちにおしゃべりや勉強の輪ができる。そんななかで哲学対話が花咲いているのも、悪くはない。

最近、参加者が固定してきたのがちょっと気がかりだ。カフェというよりサークルという感じがする。それはそれでいいのだが、やはり見知らぬ人と対話する開かれた公共空間というのが哲学カフェの特長だとすると、ちょっと物足りない。もちろん、新しい参加者が増えないのは、宣伝が不十分ということもある。「カフェフィロ」のウェブ・ページの他、キャンパス内にチラシを掲示し、港区の公民館や図書館にチラシを送っているが、今のところ港区施設のチラシを見て来た人はいない。もう少し範囲を拡大して送ってみてもいいのだが、費用と時間のことを考えると二の足を踏んでしまう。常連の学生の一人が感じのいいポスターをデザインしてくれたのだが、まだ生かしきれないのが残念。

毎回記録をとっているわけではないので不正確なところもあると思うが、これまでの対話のテーマは、「くふつう」とは？、「他人を理解するとは？」、「その人らしさとは？」、「責任をとるとは？」、「科学的知識の〈確実さ〉とは？」、「〈わかっていてけどやめられない〉とは？」、「〈おとなである〉とは？」、「善悪を教えることはできるか？」、「何のために学ぶのか？」、「利他的行為はありうるか？」、「〈職業倫理〉は成り立つか？」など。「哲学カフェ宣言」をする以前の対話で心に残るのは、「世界とは何か？」、「普遍的な〈かつこよさ〉はあるか？」。(文：寺田俊郎)

広島 広島哲学カフェ

一昨年から、広島大学のキャンパス内や周辺のレストランを借り、これまで三回の哲学カフェを開催しています。

2004 年 11 月、テーマ：自由とはどういうことか、広島大学内レストラン  
2005 年 7 月、テーマ：「自己決定」の権利とは、広島大学近くのレストラン  
2006 年 11 月、テーマ：コミュニケーションとは何か、広島大学近くのレストラン

参加者は数名から十数名と小規模ですが、大学生・大学院生だけでなく、留学生、大学職員、大学内生協職員、地域情報紙記者、一般社会員と、若者・年輩者織り交ぜ様々な人が集まってきます。中には相当な“論客”もいます。それだけにカフェで話される内容も、掘りが深く、かつバラエティに富んだ面白いものになっています。例えば「コミュニケーション」をテーマにしたカフェでは、直接会話・携帯電話・メール・読書など様々なコミュニケーション媒体の違いが話題になり、そこから相手に対する応答の仕方・公/私の分け方・暴力との表裏関係・他者性などの問題がリアルに浮かび上がりました。また「コミュニケーションとは化学反応のように人が集まれば生じる何かだ」といった（システム論的！）洞察もあり、コミュニケーションって「何じやる？」（広島弁的！）と参加者たちがしばしば沈思する場面も。今年からは、山の中の広島大学周辺から広島市内に開催場所を移して、さらに広くカフェを展開する予定です。(文：堀江剛)

